



李在烈（前列左）の家族と撮影（前列右が筆者）



前列右が筆者

世界で活躍するためには自分自身をもっと知らなければならない

志賀 亮平

企業法学科 / 4年

派遣大学 / 忠南大学校経商大学（韓国）

私は2003年8月より一年間、韓国の国立大学である忠南大学校経商大学に交換留学生として派遣されました。大学は韓国中部の大田市にあります。大田市は交通の要所として発展した中堅都市であり、また大企業の研究機関が集まる研究都市でもあります。

私は大学の寄宿舎に入りました。2人部屋でルームメイトは同じ経商大学の李在烈（イ・ジェヨル）という2年生でした。在烈は単にルームメイトであっただけではなく、私の韓国生活をさまざまな面から助けてくれるとても頼れる存在でした。正月には一緒に在烈の実家に帰省しました。在烈の家族も私を家族のように迎え入れてくれました。

韓国にも日本同様にお盆や正月に親族が集まって過ごすという風習がありますが、その内容は大きく違っており、いつも新鮮な驚きがありました。その他、日本と韓国は近い国でありながら、風習から、ものの考え方、生活習慣などが大きく異なります。また、その違いについて何度も韓国の方と話をしました。その度に、自分が日本について知らな過ぎると思いました。自国のことを説明できず、何度ももどかしい思いをしました。

このように、留学して一番感じたことは、自分が日本人であるということでした。誰もが日本人として私のことを見ます。これから世界で活躍していくには自分自身についてもっと知らなければならない、これに気づいたことが韓国生活で得た一番大きな成果です。

普通の生活を通して、ナマのアジアに触れています

土谷 珠美

社会情報学科 / 4年

派遣大学 / ウーロンゴン大学（オーストラリア）

交換留学生として、ここウーロンゴンにやって来てからもう8ヶ月が経とうとしています。ウーロンゴンは、オーストラリアで一番大きな都市シドニーからは、電車で1時間半くらいの場所にあります。小さな町ですが、買い物も交通も便利で、海が近く気候は穏やかで、生活するにはとても心地良いところです。最近は暖かくなってきたので、サーフィンやボディボードを小脇に抱えて自転車に乗り、ビーチに向かう人たちをよく見かけるようになってきました。

ウーロンゴン大学では、現地の学生に混ざってオーグスタイルの授業を受けることができます。グループ単位での共同作業を通して、オーグや他の国からの留学生と一緒に勉強できたことはいい経験でした。

寮ではマレーシア、シンガポール、台湾、香港の女の子たちと同じユニットに暮らしていて、完全なアジアン・ユニットになっています。每晚遅くまで話したり、シドニーのチャイナタウンへ飲茶を食べに行ったり、お互いの国の料理を作ったりしています。私も留学してからお寿司を作る機会が増えました（アジア系の食品を扱っているお店で、寿司酢から納豆からなんでも揃えられる）。こんな普通の生活ですが、この寮生活を通して、私は今ナマのアジアに触れているんだと思います。

この留学を支えてくださっている小樽商科大学の関係者のみなさんに、感謝の気持ちでいっぱいです。残りの留学期間も悔いのないよう過ごしたいと思います。